

平成24年度 鳥取県議会台湾訪問団

報告書

〔平成24年10月22日（月）～25日（木）〕



鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

平成24年10月22日（月）～25日（木）

台湾（台中市、苗栗県、桃園県、台北市）

※ 詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団長 伊藤 美都夫 議員

副団長 横山 隆義 議員

秘書長 森岡 俊夫 議員

<随行> 議会事務局 議事・法務政策課 課長 補佐 山根 茂幸

調査課 係長 川口 豊長

文化観光局 交流推進課 国際交流員 陳 滢如（チェン インルー）

3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会による台湾訪問団は、台湾と鳥取県との農業交流の状況と今後の推進方策、台湾における次代を担う人材育成の状況、大学間交流の課題等について調査することを目的に、2年ぶりに台中市、台北市等を訪問した。議会の訪問団としては、鳥取県が友好交流を続けてきた台中県と台中市が平成22年12月に合併し、新たな台中市が誕生してから初めての訪問であり、今後の交流についての意見交換することも目的のひとつであった。

今回の訪問は、尖閣諸島の国有化の方針等に端を発し、尖閣諸島の領有権をめぐる周辺諸国との緊張関係が高まっている時期であったが、我々訪問団は行く先々で大歓迎を受け、領有権問題の影響はまったくと言っていいほど感じられなかった。これは、日本と台湾の双方が大事なパートナーであると認識している証であり、これまで日本と台湾が長年にわたり培ってきた絆の強さ故だと考えられる。

特に、我々日本人が忘れてならないのは、先の東日本大震災において、いち早く、台湾各地の消防士からなる台湾救援隊が現地に入り捜索活動を行うなどの人的支援や、発電機、毛布などの物的支援とともに、200億円にも上る義援金を受けたことである。この義援金は、大企業等が大金を供したのではなく、多数の老若男女が日本のことを案じて少しずつ出したお金が積み上がったものである。鳥取県と友好交流を続けている台中市からも市政府のほか、職員が1日当たりの給料額分を寄附したと聞いた。このような事実は日本ではあまり知られていないように感じられる。もっと多くの日本人がこのことを深く記憶にとどめるとともに、このような台湾の人たちの気持ちを大切にしなければならない。

今回の訪問で一番印象深かったことは、訪問した高校の生徒のいきいきとした姿である。訪問した平鎮高級中学では、学力向上はもとより、学術芸術、武道等のスポーツなどの部活指導にも力を入れており、同校で学ぶ生徒は、礼儀正しく、行動も迅速であり、明るくハキハキとしており、知徳体の3つがバランスよくそろっていることが強く感じられた。訪問先の東海大学の王良原先生が指摘されたように「日本の高校生は心が弱い」と外国からも受け止められており、これを克服する方法として、体を鍛えることによって心も体も健康に成長させる台湾の高校の取り組みは大いに参考になるものと感じた。

まず、教育に関する所感について具体的に述べたい。

今回訪問した台中市にある東海大学は、昭和30年に台湾で最初の私立大学として設立され、34学部、在校生約17,500人、教員約650人を擁する台湾で最も有力な総合大学のひとつである。鳥取県との関係では、県の「台湾大学生インターンシップ受入事業」で、平成23、24年に5人の学生が県内の旅館等においてインターンシップを行ったほか、鳥取大学が平成20年から毎年夏に開催している短期日本語・日本文化研修プログラムに5人程度の学生が参加しており、今年8月には鳥取大学との間で国際学術交流協定を締結するなど、非常に関係の深い大学である。

東海大学は、キリスト教系大学であり、その設立経緯からも国際的なつながりが強く、留学生の受け入れにも熱心である。訪問時の説明でも、日本人が台湾の大学に留学するメリット、例えば、非常に親日的な国柄なので国際情勢に左右されることなく中国語を学ぶ大学として最適であること、海外の大学で学ぶというチャレンジ精神の涵養に優れていることなどを強調され、鳥取県からの留学生を歓迎する意を表された。国際化が進展する今日、外国との様々な軋轢が生じることも増えてくるものと予想されるが、そういう時こそ、人のつながりが難局を乗り越えるのに重要となってくる。国際的な視野を持つ若者が育ち、人と人との交流が密になることにより、相互理解の促進につながるものと感じた。

また、教育関係のもう一つの訪問先である平鎮高級中学では、前述のように、学力向上と部活指導の両方に重点を置いた教育方針のほか、海外の高校との交流にも力を入れており、2年前には生徒23人が八頭高校を教育旅行で訪れている。部活の中には日本語部もあり、我々の訪問の際も生徒4人が日本語であいさつを行うなど、日本に対する関心は高い。次代を担う青少年の交流は非常に重要であり、一層の交流の活発化の必要性を強く感じた。校長先生に県内高校への教育旅行を要請したところ前向きな回答もいただいた。生徒の間では名探偵コナンなど日本のマンガの人気も高く、「マンガ王国鳥取」も活用すれば、さらに交流も広がっていくものと感じた。なお、亜東関係協会を訪問したときに同席されていた台中市大肚区関係者に対し青少年のホームステイ事業を提案したところ、賛同していただきおり、今後具体化していくことを期待している。

次に、農業交流の状況等について述べたい。

日本から台湾へは、梨の穂木が多数輸出されている。台湾では日本の梨が人気だが、温暖な気候により花芽ができないため、日本で低温に遭遇した花芽がついた穂木を輸入し、台湾の梨の木に接ぎ木をして梨を栽培しているのである。鳥取県と台湾との交流も梨の穂木の輸出がきっかけである。近年、福島第一原発の事故による福島周辺県の台湾への梨穂木の輸出禁止などのため、台湾で必要な量の梨穂木が確保できず、鳥取県に対しても梨穂木輸出の要求は非常に強い。しかしながら、県内の梨栽培面積の減少などの理由により、台湾の要望に答えられていない現状にある。

今回の訪問でも、卓蘭鎮農会から梨穂木の輸出量の増加と新品種の梨穂木の輸出を求める要望を伺った。新品種の輸出に関しては、輸出した穂木が無断で中国や韓国に渡って栽培される懸念があるが、農会側からは輸入された梨穂木は厳格な数量管理等を行うとの説明があった。輸出される梨穂木は、剪定で処分してしまう枝であり、それがお金になることは県内農家にとってもメリットのあるところである。双方にとってメリットのある輸出であり、win-winの関係となるよう、輸出に係る仕組

みを再構築するなど、何らかの仕組みを考えるべきである。

次に、台湾への企業進出について述べたい。

今年度になってからも台湾に進出した県内企業が報道されているが、そのうちのひとつである「株式会社きさらぎ」の木村社長から訪問前に台湾での事業展開についてお話を伺い、現地では台北駅にある「鬼太郎商店台北駅店」を訪問した。同店は、昨年11月に完成した台北駅の改装に併せてオープンしたものであり、日本語も堪能なマネージャーが切り盛りしていた。木村社長によると、日本とは仕事のやり方等が異なる中で職員の採用や採用後の指揮命令等で難しい面があるということであった。海外進出するに当たっては行政が様々な手厚い支援を行っているものの、進出後の支援はあまり充実していないと思われ、この点での支援策の一層の充実が必要であると感じた。

今回の訪問を通じて、これまで培ってきた日本と台湾の絆の深さを強く感じるとともに、梨などの農業交流の課題、県産品や県内企業の台湾進出の可能性の高さを再認識することができた。台湾との絆を更に強固なものとなるよう、次代を担う青少年の相互交流やスポーツ等を通じた住民同士の草の根交流などが一層活発となることが期待される場所である。今回の台湾訪問を契機に、具体的な取組みが推進され、台湾との交流が益々発展することを願うとともに、今後の鳥取県と台湾との人的交流、農業交流、経済交流等のあり方について再考することができた大変有意義なものであった。



台湾総督府前にて

4 日程表

月日	日 程		移 動	宿 泊
10月	7:05	鳥取空港→羽田空港	ANA292	
22日	7:15	米子空港→羽田空港	ANA812	
(月)	10:05	羽田空港→台湾松山空港 (日本との時差-1時間)	NH1185	
		台湾新幹線により台中市へ移動 ・東海大学視察・夕食会	台北市 新幹線 台中市	台中市泊
23日			借上バス	
(火)	10:00	・卓蘭鎮農会 調査・昼食会	苗栗県	
	16:00	・台中市政府表敬	台中市	
	18:00	・台中市議会夕食会		台中市泊
24日	8:00	台湾新幹線により桃園県へ移動	桃園県	
(水)	9:30	・桃園県立平鎮高級中学 調査	借上バス	
	12:15	・台湾政府外交部昼食会	台北市	
	14:30	・財団法人交流協会台北事務所 表敬		台北市泊
25日	10:10	・鬼太郎商店台北駅店 調査	借上バス	
(木)	13:30	台湾松山空港→羽田空港 (17:00着)	NH1186	
	18:05	羽田空港→米子空港	ANA817	
	19:40	羽田空港→鳥取空港	ANA299	

5 訪問先の概要

【平成24年10月22日（月）】

（1-1）東海大学調査（台中市）

〔応対者〕 葉芳栢 校長、王良原 国際教育合作処国際学生交流組

鄭金昌 体育室主任、蔡侑茹 国際教育合作処国際学生交流組・職員

葉芳栢校長から東海大学の概要を説明いただくとともに、王良原先生から台湾の大学に留学するメリットを伺った。台湾の大学が、グローバルな人材の育成に力を入れていること、日本からの留学生を歓迎していることが感じられた。主な懇談内容は以下のとおり。

【葉芳栢校長の主な説明内容】

- ・ 東海大学の面積は東京ドーム28個分。
- ・ 幼稚園から博士まで、1箇所ですべて学べる大学である。
- ・ 東海大学の教員の8割はアメリカ、ヨーロッパなどでの留学経験がある。
- ・ 大学の構内に地域のシンボルであるチャペルがある。キリスト教大学なので、奉仕の精神を重んじている。
- ・ ニューヨークに大学の理事会があるが、同じ時期に日本と台湾に大学を開設した。それが日本の国際基督教大学と本学（東海大学）。
- ・ 次世代を教育するため、鳥取県との交流を深めたい。

【王良原先生の主な説明内容】

- ・ 日本の大学生が就職できない主な理由は、未知の問題を解決する能力に欠けているため。グローバルは日本人だけではない。
- ・ 企業が求める人材の要素のうち、大学が提供できるのは「専門知識、スキル」のみ。
- ・ 語学の習得はグローバル人材の第一歩。
- ・ なぜ、台湾なのか。世界の二大言語である英語と北京語を学べるからである。
- ・ 中国だけではなく、ミャンマー、ベトナム、インドネシア等の人脈づくりにも台湾の大学がおすすめ。
- ・ オール イングリッシュコースが充実しているので、英語を勉強したい人にもおすすめ。
- ・ 例えば警察など、中国語を必要としている日本の官庁も多い。
- ・ 日本人が台湾に留学するメリットとして、台湾人の4人に3人が日本人に親近感を持っていること、学費や生活費が格段に安いことが挙げられる。
- ・ 日本の高校生は負けている。台湾の高校生と比較して、英語、中国語、パソコンができない。しかも、心が弱い。



葉芳栢 校長とともに



大学のシンボルでもあるチャペル



緑あふれる広々としたキャンパス



東海大学校章

【平成24年10月23日（火）】

（2-1）卓蘭鎮農会（苗栗県）

〔応対者〕卓蘭鎮農会

吳阿貞 理事長、詹錦章 常務監事、徐文欽 総幹事、詹淑貞 秘書

卓蘭鎮農会供銷部（提供商売部門）

徐明雄 主任、詹文銓 梨穂木担当

卓蘭鎮農会では梨の穂木の輸出をぜひお願いしたいというお話を伺ったほか、農場の視察を行った。台湾側は、鳥取県の梨の穂木を強く求めていると感じた。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 梨が一番主要な農産物である。
- ・ 卓蘭鎮の農家は梨の穂木を必要としている。特に鳥取県の穂木が必要で、20年近く交流している。
- ・ 卓蘭鎮では年間日本円で5千5百万円の穂木を購入している。
- ・ 近年、豊水とか新興の穂木が不足しているのが現状。
- ・ 日本の梨の穂木の仕事をやっているのはお年寄りばかりと聞いている。
- ・ 日本の穂木の輸出は年々減っていると聞いており、それを心配している。

- ・ 日本からの穂木が足りないので、中国の山東省からの輸入を今年から始めた。
- ・ 中国からの輸入が安定してくれば、中国から調達することになるかもしれない。
- ・ 問題を解決するため、新品種の穂木を輸出してもらいたい。
- ・ 鳥取県が新品種の穂木の輸出が難しいということであれば、中国から穂木を買うことになるのではないか。
- ・ 新品種の輸出をお願いするだけではなく、鳥取県にとってもメリットがなければならない。例えば、1箱あたりいくらかの研究費を支払うとか、そうしたことも検討してもよい。



卓蘭鎮の朝市



説明を受ける団員



スターフルーツの栽培



倉庫で出荷を待つ梨

(2-2) 台中市政府 (台中市)

〔応対者〕 徐中雄 副市長

鳥取県と交流している台中市の副市長を訪問し、今後も積極的に交流推進に取り組み、互いに多方面での交流を深めていくことを確認した。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ ぜひ台中市に何回でもお越しいただきたい。
- ・ 台中市政府としても、日本との交流を大切にしている。
- ・ 残念なのは私が日本語が話せないこと。もしも、私が日本語が話せたら、もっといろいろとお話できるのと思う。
- ・ 日本で唯一、鳥取県は台湾人の交流員を採用。そのことだけでも、とてもありがたいと思う。
- ・ 交流員を採用するための予算は議会の了解が必要だと思うので、鳥取県議会に感謝。
- ・ 台湾の地震の際に一番先に支援をしてくれたのは日本の方々。
- ・ 議長から日本の方々が台湾が好きだと伺ったが、台湾の人々も日本が大好き。
- ・ 東日本大震災が発生した直後には、市政府としてすぐに寄付金をお願いするイベントを開催した。その夜には日本円で7千万円くらいの募金が集まった。
- ・ 警察なども含め、全ての台中市政府の職員が、1日当たりの給料相当額を募金。



台中市庁舎前にて

(2-3) 台中市議会夕食会 (台中市)

〔応対者〕 林士昌 副議長、洪鴻壤 副秘書長、陳健楷 秘書長、
黃國書 市議員、黃仁 市議員、蘇慶雲 市議員、林汝洲 市議員、
江勝雄 市議員、王偉誠 石岡区区長、李小玉 区長夫人、
王淑貞 大肚区区長、彭乾銘 議長室専門委員、曾建臺 公共関係組担当主任、
林華彬 公共関係組担当連絡担当

台中市議会副議長主催の歓迎夕食会を開催していただき、参加された方々の鳥取県との交流の経験談や今後の交流について意見交換を行った。



書道家でもある台中市議会議員から送られた書



夕食会の様子



ホテルの窓から臨む台中市内



市庁舎から臨む台北市内

【平成24年10月24日（水）】

（3-1）平鎮高級中学（桃園県）

〔応対者〕 謝錦雲 校長、陳雪玉 秘書、曾露瑤 組長、吳淑嫻 組長

金太賢（日本籍生徒）、聶芸瑋（日本語学習生徒）、
王涪宣、連君寧、李慶怡（日本教育旅行経験がある生徒）

平鎮高級中学では部活動の状況についての説明、日本語を学ぶ生徒との意見交換、校内図書館の日本関連の展示状況の見学、吹奏楽部の演奏や武術の演技の見学を行った。台湾の生徒は礼儀正しく、行動も迅速で、明るくハキハキとしており、知徳体のバランスが整った教育を受けていると強く感じた。主な内容は以下のとおり。

【校長あいさつ】

- ・ 数年前に本校の生徒を鳥取県に派遣した際には、大変お世話になった。
- ・ 2時間程度の交流ではあるが、日本語を学ぶ生徒との意見交換や、武術の演技の披露など、実りのある交流ができればと思う。

【部活動に関する主な説明内容】

- ・ 合計 39 の部活がある。
- ・ 部活の種類は、日本語の研究、漫画、映画などの分野。ギター、ダンス、歌を歌うなど、音楽やダンスに関する部活。
- ・ 吹奏楽では 10 年連続して県で賞をとっている。また、全国でも受賞している。
- ・ スポーツに関する部活は 9 つある。バスケット、水泳、テコンドー、陸上、野球など。
- ・ 野球が強くて、最近も優勝した。今年の世界青少年の大会にも出場。アメリカの野球大会でも優勝した。今年も王貞治杯など、各種大会で優勝している。
- ・ アーチェリーではロンドンオリンピックに出場した女子生徒もいる。
- ・ テコンドーはアジア青少年の大会に出場し、韓国や、イランの教員とも交流がある。



平鎮高級中学の正面入口



日本語部の生徒さんと



武術部生徒さんの演技



図書室の日本関連展示

(3-2) 亜東関係協会 (台北市)

〔応対者〕 廖了以 会長、黄明朗 秘書長、蘇啓誠 副秘書長、
何仲民 秘書部長、林雍凱 担当、蘇定東 (通訳官)、
趙信斌 (台中市大肚区農協)、張東海 (台中市石岡農協総幹事)

亜東関係協会の廖了以 会長主催の歓迎昼食会を開催していただき、今後の両国の交流の推進について意見交換を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 鳥取県と私どもは12年前の2000年に関係を持つようになった。
- ・ 私のふるさとである台中県と農業を通じて深い関係にある。
- ・ 今日は日本から友人がお見えになり、また、私個人としてもふるさとと深い関係にあるということで特別な思いを抱いている。
- ・ 皆さんがお越しになったことを歓迎したい。
- ・ 先ごろ、平井知事が100人ほどの大規模なミッションを組織して台湾を訪問された。
- ・ その際も台中市政府、市議会などと会見をされた。
- ・ 帰国されたら平井知事、関係者の方々によろしくお伝えいただきたい。
- ・ また、平井知事には再度の台湾訪問をしていただきたいと思っている。
- ・ 一般的には地方自治体の交流は形式的なものも多い。
- ・ しかし、鳥取県と台中市との交流は実質が伴うものである。
- ・ 台湾の国際交流員の採用をはじめ、鳥取県と台湾との交流は成功している。
- ・ それだけではなく、三朝町と北栄町が台中市と交流を行うなど、広がりがある。
- ・ 孔子の友あり遠方より来るまた楽しからずやという言葉があるが、日本から意義のある友人がお越しになったことを嬉しく思う。



全員で記念撮影

(3-3) 財団法人交流協会台北事務所（台北市）

〔応対者〕 佐味 副代表、山田主任

交流協会台北事務所の佐味 副代表を訪問し、日本と台湾の交流について意見交換を行った。主な懇談内容は以下のとおり。

【主な懇談内容】

- ・ 交流協会はちょっと変わった組織。日中国交正常化により台湾との国交が終了。
- ・ しかし、経済、文化という実務的な部分はしっかりサポートする必要がある。
- ・ 当事務所の代表も外務省OBで大使を2、3経験されたような方。総務部長も外務省職員。
- ・ 事務所には70人くらいの職員がおり、日本人が35人、台湾人が35人くらい。各省庁から出向者がいる。
- ・ 事務所の規模としては大きく、世界で見ても10本指くらいに入る。
- ・ 台湾は政権も2期目となり、大陸との関係も安定している。
- ・ 尖閣の問題では、この事務所や日本人学校に抗議活動はあるが、破壊行為はない。
- ・ お互い大事なパートナーというところは総じて揺らいでいない。
- ・ 安心して台湾との交流を進めようという話をしていただければありがたい。
- ・ 尖閣の問題に係る漁業問題については、台湾の漁民の方も今まで以上に漁ができなくなるのではないかとおそれており、沖縄の漁民の方々の立場も踏まえ、ある種のルールは作っていく必要があるのかなと思う。3年間くらい公式の協議は途切れている。
- ・ 経済・文化面の交流はこれまで以上にスピーディーに深くしていく必要がある。
- ・ 東日本大震災の際の台湾の200億円の義援金のすごいところは、お金持ちの方がポンと出されたのではなく、庶民が、老若男女問わず募金した草の根レベルの募金ということ。
- ・ 台湾の過去の災害に対して日本が行った支援に対する御礼ということ。
- ・ 去年の夏以降台湾を訪問する日本人は過去最高レベル。震災前は考えられなかったような数の日本人が台湾を訪問している。



佐味副代表との懇談



二二八和平公園



台湾新幹線

【平成24年10月25日（木）】

（2-2）鬼太郎商店台北駅店（台北市）

〔応対者〕 徐 成美 マネージャー

株式会社きさらぎの鬼太郎商店台北駅店を訪問し、台北駅店の位置付けは駅の特徴であるいろいろな客層が行き交う場でのアンテナショップとして考えていること、今後の展開を考えていること、など台湾におけるビジネスの状況について、説明を受けた。



鬼太郎商店台北駅店（その1）



台北駅



鬼太郎商店台北駅店（その2）



説明をいただいた徐成美マネージャー